

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

ご説明申し上げます。

議案第５２号は、令和７年度一般会計補正予算（第３号）でありまして、歳入歳出それぞれ５１３万９,０００円を追加いたしたいものであります。

歳出は、８款土木費、住宅リフォーム支援事業（物価高騰対策）の追加であります。

次に、歳入につきましては、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を充当したほか、所要の一般財源につきましては、前年度繰越金を充当いたしました。

以上であります。よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

○議長（古畑浩一君）

ただいまの説明に対する質疑に入ります。

ご質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

ただいま議題となっております本案につきましては、建設産業常任委員会に付託いたします。

日程第４．一般質問

○議長（古畑浩一君）

日程第４、一般質問を行います。

発言の通告者は１６人ですが、議事の都合により、本日４人、１６日４人、１７日４人、１８日４人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き、１人３０分であります。所定の時間内に終わるよう、質問答弁とも簡潔に、要領よくお願いいたします。

また、質問は、通告の範囲内にとどめるようにご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

中村 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。〔１６番 中村 実君登壇〕

○１６番（中村 実君）

おはようございます。創生クラブの中村でございます。

久保田市長におかれましては、初議会、初一般質問ということで、私のほうから第１番目の質問をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、「相撲のまち糸魚川」の展望について伺います。

横綱大の里、中村泰輝君は、７歳で相撲を始め、中学進学を機に、糸魚川市の市立能生中学校、県立海洋高校に相撲留学し、数々の活躍や優勝を重ね、進学先である日本体育大学では、学生横綱

やアマチュア横綱2連覇を果たすなどの実績を残しました。

大学卒業後は、大相撲の世界で夢をかなえるために選んだ部屋は、元横綱稀勢の里の二所ノ関部屋で、その後の活躍は言うまでもなく、日本人横綱としては師匠の稀勢の里以来、8年ぶりという快挙を成し遂げました。

引き続きけがもなく記録を重ねていくことにより、今以上に出身地である石川県津幡町と糸魚川市の明るい話題となり、当市の知名度も高まるものと思います。

また、大の里以外にも海洋高校の卒業力士が多くいることから、今後の活躍が楽しみです。については、各種課題もあると思いますが、今後このような盛り上がりを活用した「相撲のまち糸魚川」について、次の点を伺います。

- (1) 津幡町との交流や連携の予定はあるのか伺います。
- (2) 相撲道場の新設や既存土俵の整備拡充の計画はあるのか伺います。
- (3) 相撲を活用したまちおこしについての展望はどうか。
- (4) 市立能生中学校での相撲留学再開の可能性はあるのか。
- (5) 市は、「相撲のまち糸魚川後援会」とどのように関わっていくのか。

以上で、1回目の質問を終わります。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

改めて、おはようございます。よろしくお願いいたします。

中村議員の質問にお答えいたします。

1点目につきましては、津幡町とは相撲を通じた交流や連携を図りたいと考えております。

2点目につきましては、関係団体から、施設整備を求める声があることは承知しておりますが、今後、意見交換してまいります。

また、既存の土俵についても、関係団体と意見交換してまいります。

3点目につきましては、各種イベント開催において、相撲を最大限生かしてPRしてまいります。

4点目につきましては、中学生単独での受入れ再開は、今のところ考えてはおりません。

5点目につきましては、組織構成や具体的な事業、活動内容をお聞きする中で、相撲を通じた地域の活性化につながるよう取り組んでまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

それでは、再質問を行います。

今回の一般質問は、糸魚川市で6年間育った中村泰輝君が、相撲界では神と呼ばれる横綱になったということで、海洋高校時代を校長として見てこられた久保田市長に、これからの取組を何点か

伺いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

また、（５）で質問いたしております相撲のまち糸魚川、これはまだ立ち上がっていませんので、言える範囲で、まだ分からないと思いますので答弁していただければいいかなというふうに思っております。

今ほどの（１）の津幡町、これは考えているということですが、今回の大の里が優勝したということで一番盛り上がったのは、当然、地元の津幡町だと思うんですね。その次には糸魚川市、当市においても横綱昇進に合わせてアドバルーンを上げていただいたり、花火を上げていただいたということで、市民は大変喜んでおりました。

先ほど市長の答弁では、今後、交流を考えているということでありましたが、糸魚川市は、姉妹都市としては塩尻市、それから能生町時代からの流れで、友好都市として北海道の日高町や岩手県の葛巻町、こういう交流があるわけですね。今後、交流を考えていくということですが、単なるそういう簡単な交流で終わるのか、例えばこういう友好都市のようなことに進んでいくのか、その辺のお考えを伺いたいと思います。

○議長（古畑浩一君）

ただいま中村議員の発言の中で、親愛の情だと思うんですが、中村泰輝君と言ってますね。できましたらね、尊敬するんであるならば「さん」で、ひとつよろしくお願いいたしますと思います。

○１６番（中村 実君）

分かりました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

ただいま津幡町との関係ということで、まず最初に、そこについてはお答えしたいと思います。

５月３０日に津幡町の町長さんとようやく連絡が取れまして、お電話でお祝いのメッセージを差し上げました。その中において、今後、糸魚川市との関係づくりについて、お互いに意見交換をしたいという旨の申入れをしましたので、それ以降については、また引き続き意見交換をしてまいりたいと思っております。

また、やっぱりその誕生したという出生地ということのものも大きいと思いますので、まず、津幡町さんの動向を見ながら、糸魚川市としてどのような対応をすればいいのか、そこも含めて考えていきたいと思っております。

また、他の市町村とのこれからの関係づくりであります。当然今までそういう友好都市、また知音都市ですか、そういう部分で関係のあったところについては、改めて、全国市長会、北信越市長会等でもご挨拶を申し上げました。

さらに、また関係づくりという都市、市町村については、私もこれまでいろんなところを巡ってきた中において、関係づくりを深めたいという市町村もございますので、そことの関係づくりも含めて、糸魚川の交流人口、関係人口の増加に努めてまいりたいと思っております。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

先ほど申し訳ありませんでした。「君」だちょっと駄目ですよ、これだけの人になったので。中村泰輝さんということで、よろしく願いいたします。

ありがとうございます。今後どういうお付き合いになるか分からないですけど、私も津幡町ちょっと調べさせていただきましたら、結構コンパクトな町だということなんですが、教育関係、結構一生懸命なんですよ。だから、相撲だけじゃなくて、いろんな取組もあると思いますので、ぜひそういうところもお付き合いできればなというふうに思っております。

次の質問に入るんですが、大変質問しづらくなってきました。ということは、今ほどの議案第50号、市民栄誉賞、実は市民栄誉賞を与えるべきじゃないのかという質問に入る予定だったんですけど、今日の朝の新聞読んだんですけど、新聞にもここに載っていました。もう既に動いていたんでいるんだなということで大変喜んでおります。これもあんまり聞くと事前審査になってしまうので、1点だけ、じゃ聞かせてください。

これいつ頃からどうだという話が出たのかだけ伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

市民栄誉賞につきましては、当時、5月場所で優勝した段階で横綱昇進ということが、5月28日に正式発表されるということを受けまして、事前にそういう活躍して、糸魚川市の名前を非常に広めていただいたという功績のある人たち、過去の人たちも含めて、こういう賞の該当があったのかという部分について調べていただいた中で、そういうものがないのであれば、ひとつこれからの将来の子供たち、また、市民のためにもつくったほうがいいんじゃないでしょうかという部分で、当時、事務方のほうにもお話をさせていただいて、対応したということでございます。

○議長（古畑浩一君）

その前に、中村議員に申し上げますが、今のこの件につきましては事前審査に当たりませんので、遠慮なくご質問していただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

あんまり深入りするとまずいかなということで、これは栄誉賞に当たるということでね、やっていただけるんだろうというふうに思いますし、石川県でもね、県民栄誉賞を29日ですか、頃に頂けるということで、大変全国的に動きも出てきているなというふうに思っていますので大変喜んでいますが、今後、糸魚川市で横綱がまた出ていただければいいんですけどね、なかなか難しい業界なので、今後難しいと思いますが、ぜひ今回は、栄誉賞を与えていただければなというふうに

思っております。よろしくお願いします。

次に、相撲道場について伺いますが、今ほど施設整備は考えていないと。これから考えていくのか。過去に、能生に相撲道場を建てたいということで、米田市長宛てに要望書を出したことがあります。その当時は、久保田市長は多分、校長先生をやられていたという時期なので、この辺の要望が出たというのは相撲関係でご存じだったのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

当時、私も現職で海洋高校の校長やっていたときに、そういうお話を伺ったということは承知しております。

さらに相撲道場につきましては、現在、学校の敷地内にあるものですから、県教育委員会の管轄ということで、これからの相撲道場の対応については、県教育委員会との話の中で進めていたように記憶しております。今後、いろんな意味で、この件については、まずは意見交換をしていかないといけないということと、組織的にもまだ明確な組織立てという部分には至っておりませんので、これについては少し様子を見ながら対応させていただければと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

これは、市長がまだ海洋高校のときだったということで、その当時は米田市長だったわけですが、副市長は織田さん、織田副市長、もう既に亡くなられてるんで、当時を知る人がもういないわけですが。この辺の内容は、市とすれば、井川副市長とか鶴本教育長あたりが、ある程度の年配なわけですから、その辺はどちらかこの要望書ですがね、これ要望書なんです。これご存じでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

要望書については、承知いたしております。

ただ、私、教育長在職時代、また今副市長を務めておりますけども、この6年半ぐらいの間に直接要望を受けたことがないものですから、現時点での動きについては承知しておりません。

しかしながら、今ほど市長が答弁申し上げましたとおり、関係団体との意見交換はこれからさせていただくことになろうかというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

お答えいたします。

私の名前が上がりましたので、その要望書の件について承知しているかということの確認だと思います。私もずっと記憶をたどってるんですけども、学校現場に勤務しているときぐらいだと思います。退職した直後なのか、そこら辺りのことなので、その要望書の具体的な内容についても、私は承知しておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

この要望書は、市長宛てに、相撲のまち糸魚川、相撲道場建設についてということで要望をさせていただいております。これ平成28年8月2日付で出されているんですが、糸魚川相撲連盟会長、田海哲也さんと紹介議員ということで、もう今辞められましたけど、当時の倉又議員、そして在職してる松尾議員と私の連名で、これは出させていただいております。

これは、もう9年ほどたってるんですが、出してからほとんど動きがないんですよ。大変な事業だということでね、そんなに簡単にできる事業じゃなかったんで進まなかったと思うんですが、要望書の内容としては、ちょっと抜粋してですが、読ませていただきたいと思います。

相撲道場の建設について。

海洋高校の相撲を核として、長い歴史と伝統を持った国技である相撲の振興を通じ、心身ともに健全な青少年、社会人の育成を目指し、幼稚園、保育園、小学校の相撲教室の開催を通し、小さいときから相撲に親しみ、心身を鍛え、日本一の子供づくりを目指した糸魚川市の子ども一貫教育に励んでいます。相撲道場は、糸魚川市の相撲の拠点として、さらに全国大会の誘致と併せ、相撲の盛んな糸魚川市を全国に発信できるものと考えます。この趣旨をご理解いただき、建設に取り組んでいただきたいというような内容であります。

それから、もう一点、これが相撲のまち糸魚川の現場の図面になります。ちょっと大きいものなんですけど、これまた後で見てもらえばいいかと思うんですが。これは、あの頃は旧能生町の体育館を解体する頃だったんです。そのときに要望とすれば、旧体育館の跡地に建てていただきたいということだったんですが、現在の青空いちょうの家が建ってる、建てるという計画があったもんですから、そこでは駄目だということで、当時の織田副市長にお願いをして、どっかほかにもいい現地がないかということで探していただきました。当時の織田副市長は、海洋高校の近くのほうがいいんじゃないかと。そうすれば、海洋の生徒も利用できるし、相撲大会もそこでできることで、織田副市長は一生懸命、場所を探してくれて、私とも話をしていましたが、当時、改めて場所まで、ここがいいよという話あったんですけど、場所まで私、聞いてなかったんですよ。

ただ、この図面を見ますとね、大変大きい建物なんです。駐車場まで入ると約3,500平米、約1,000坪ぐらいの敷地が必要だということで、もしかしたら織田副市長は、この大きさを見ないで場所を決めたのかもしれませんが、これは300人規模の観覧席と小上がり、それか

らいろんな部屋がついておりますんで、これをする、今の現時点では材料費や人件費の高騰で、非常に建設は難しいというか、もうできる状態の建物ではないなというふうに思っていますが、久保田市長は、縮充ということを公約の一つに上げられて当選されたと思います。私個人だと、縮充は、人口減少が進む糸魚川市において、縮小を前提として生活の質を落とさず、向上させていくんだというような内容もあるんじゃないかなというふうに思っております。私も、この建物をちょっと縮小してもいいと思うんですよね。今後、糸魚川の活性化を見据えた、相撲のまち糸魚川をうたい文句にしていくわけですから、再度これを検討していただきたいと思うんですが、この図面をまた後で見ていただきますが、市長、改めていかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

基本的に、公的な関係で施設を造るには、非常に厳しい問題があると思っておりますので、これにつきましては、民間主導で進めるべきだと、今はそういう認識でおります。

また当時、相撲道場が校地内にあるということで、当時困っていたのは、実を言うと寮のほうがかつていたというところでありまして、私が退職時に寮の増設を、グラウンドを少し削って、作っていただいたということ。それが当時、海洋高校としては、非常に優先事項が高かったものですから、その部分の敷地については、グラウンドを削って、寮を増設したということになります。

また、他の候補地については、今、現寮の向かい側にあるところ、これについて提案があったというふうに覚えておりますけれども、基本的に地滑り等の危険性のある場所ということで、公的な部分、また学校の敷地内を活用するにはちょっと非常に厳しいという見方をしておりました。

そういう部分において言えば、それ以降進めていただいております相撲道場の建設については、基本的にはペンディング中であるというふうに思っております。これからやっぱりそういう部分で機運の盛り上がり等も含めて、また、部活動の地域移行、また地域展開を含めていけば、それなりの対応できる、民間指導のできるようなことが前提になって意見交換をしなければいけないんじゃないかなというふうに思っております。

以上であります。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

建てる建てるはね、この先の話になると思いますので、ぜひ、取りあえず場所があるかどうかということも探さなきゃいけないんで、検討をまたしてみたいなというふうに思いますのでよろしくお願いいたします。

次に、3番目の相撲を活用した町おこしをどのように進めていくかということですが、大の里が横綱になったということで、大変糸魚川市も有名になったんじゃないかなというふうに思っております。

過去には、糸魚川も海洋高校もほとんどそんなに知られていなかったことでありますが、いろんな他県の大会のときに、行ったときに、これも久保田市長はご存じだと思うんですが、ほかの大会に行ったときに、アナウンサーが「能生（のう）」というふうに読めなくて、「のうせい」というふうに放送したと。それを田海監督は、それに対してクレームはつけなかったと。必ず有名になって、「能生（のう）」と読めるようにするんだということで心に強く収めたということ、本人から私も聞いたことがあります。

これで、大の里が横綱になったということで、多くの人たちは、糸魚川市、能生（のう）というふうに読める人が増えてきたのではないかなというふうに思いますが、ただ、まだ知名度もまだ低いと思いますので、今後また知名度を上げるために、相撲を活用してPRしていくということですが、どのようなPRの仕方をしていくのか。ただ、大の里がテレビに出たのを見て応援するだけなのか、何か糸魚川市としてPRの仕方ってのはあるのか、その辺を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

まず、今、中村議員からお話あったとおり、私自身も高校現場で部活動等を指導しておりまして、「いといがわ（糸魚川）」と読んでくれる人、他県に行きますと、「いとうおがわ」なんですね。また、「のう（能生）」が、「のうせい」と呼ばれたということを私自身も承知して、やっぱりという気持ちはありました。

ただ、今回、大相撲関係の部分での機運の盛り上がりというのは承知しているところであります。

先般、関西万博で、花角知事ともお話しさせていただいて、新潟県として非常に喜ばしいことであるというお言葉もいただきました。

そういう中で、海洋高校の相撲部も関西万博のほうに出向いて行って、アンコウのつるし切り、また、相撲イベントを行うなど、非常にそういう部分では、糸魚川、そしてヒスイという部分も大きく広まってきております。スモールステップを踏みながらということなんで、一気に何かをするわけではありませんけども、やはり相撲に関わる部分で言うと「食」、ちゃんことかという食の提供をインバウンド向けにする。また、市内でアンコウフェアとかいう中で、そういう部分を海洋高校の相撲部から、また、海洋高校の生徒から参加していただいて、そういう部分を広めていただくという部分、全国各地に海洋高校が出向いて、そういうイベントに行っておりますので、そういう中で、またそういうところからこちらに、いわゆる来る、引き込んでくるということ、を全庁挙げて、また、皆さんと協力しながら進めていければと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

ただいま私の発言で、

感情的な言葉がありましたので、これについては訂正さ

せていただきたいと思います。失礼しました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

後で質問しようと思ったんですけど、今ほど万博の話も出ましたんで、夕方のテレビを見ていたら、知事と市長が並んで映っていて、その奥のほうに大の里の等身大の写真と、あれ白熊なんですかね、ちょっとよく見えなかったけど。白熊と2体、2つだと思うんですけど、大変PRになったなというふうに、ヒスイも当然出てましたし、そういったところでもね、相撲だけでもなくて、いろんな、ヒスイだとかそういうものも併せてやっていただきたいと思いますというふうに思いますが。

今日、万博、糸魚川が今日までなんですよね。今日が最終日。ちょこっと聞いたところによると、アンコウのつるし切りも海洋高校の生徒がやるんだという話を聞いていたんですが、つるし切りをした後に、当然アンコウ汁とかというのを振る舞うんだと思うんですけど、その辺は事実なんでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

お答えいたします。

現在、新潟県催事のほうへ糸魚川市として出展をさせていただいておりまして、ご指摘のように6月10日から13日、本日まで4日間を開催しております。食の暮らしの未来をテーマという催事になっておりまして、本日13日のイベントで、海洋高校の生徒が、アンコウのつるし切りを実践する予定です。

ただ、食のほうの提供は、現地の会場の規制でできないことになっておりますので、今回は、つるし切りのみのイベントということになります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

すいません、課長、課長も映ってました。

つるし切りだけでも相当のPRになると思うんですよね。やはり大きく相撲のほうで、横綱が糸魚川なんだということをPRしながら、糸魚川を調べたときにそういう食文化があるんだな。自然が豊かなんだなというところも今後、PRしていただければなというふうに思っております。

それから、この相撲をPRしてくということになると、糸魚川の能生中学校、海洋高校というのは、既にもう皆さんご存じだというふうに思うんですが、市内でもあんまり知られていないのは、木浦保育園、これは昭和60年から年少、年中、年長に分かれて、男女関係なく、全員で年3回、こども相撲を開催しているということなんですよ。この保育園では、長きにわたって相撲教育を

続けてきたということですが、こういった昭和60年から続けてきた相撲の取組、これは教育関係になるのかな、教育長いかがですか、ご存じでしたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

お答えいたします。

保育園の園児が相撲をしているというような部分のことにつきましては、直接、参加したことは、私自身、今までございませんでした。

ただ、新聞報道等で取組をしているという、こんな活動をやっているというようなことについては、何回か記事を目にしたことがございます。園児が、小さな子供たちが一生懸命取り組んで、全身を使いながら一生懸命戦っているというような部分については、非常に好ましいなというようなことも思いますし、そこに含まれている教育的な価値等も大変大きなものがあるんだろうというふうに思ってます。約40年間も続けてこられたということになりますというと、やっぱり保護者はもちろんですけども、関係者の皆さん方の思いというか熱意みたいなものが、本当に大事に大事に育てて、今日までなってるんだなってことを思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

今月、6月というから、もうやったのかどうか分かんないんですけど、6月場所、夏場所をやるそうなんですよね。40年ぐらいたつんですけど、通算で118回続けているそうです。それに今度園児の親御さんたちが、化粧まわしを作ってくれているんですよね。それをつけて相撲大会に臨んでいるということですが、そのときの手作りの化粧まわしが、生涯学習センターで飾られていたんですが、94枚ほどあったそうです、これは全部ではないと思うんですが。

私も生涯学習センターへ化粧まわしを見に行ってきたんですが、大変な力作ぞろい、びっくりするぐらい。上手に作ってあるなというふうに見てきました。やっぱりこういうものもやっぱりPRに使えるんじゃないかなというふうに思いますが、市長は、就任して、大変挨拶もあるとかいろいろ忙しかったんですが、このまわし、化粧まわし、見に行かれましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

拝見させていただいていることは、拝見させていただいております。過去にもそういう展示、また、化粧まわしをつけた保育園児等の活動も見たこともございますので、それについては拝見しているということで、お答えいたしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

この化粧まわしも大変力作ぞろいだということで、園長先生とすれば、多くの人から見ていていただきたいということで、ここの1階にも展示させていただきたいというふうをお願いしたそうですが、総務課から断られたということで伺っております。それは、後でお伺いしたら、7月の選挙があるんで、なかなか展示ができないということだったんですけど。後日、生涯学習課から連絡がありまして、19日から青海のきらら、その後はキターレで展示をしていただけるとということで連絡があったということで、そのとき園長先生が、相撲のまち糸魚川ですもんねとポツンと言、大変うれしかったそうです。

庁舎は、選挙が、また7月の選挙が終われば、またいつか飾れるときがあると思いますので、相撲のまち糸魚川をPRするためにも、1階でも飾るような計画というのはできますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

おはようございます。

お答えします。

市役所の1階、大会議室という名称になっておりますが、名前のとおり会議や事務室等で使うほかに、行政関連の展示などを行うことができます。今回、選挙が終わった後なんですけれども、10月に国勢調査がありまして、その事務所として引き続き使う予定で、実際には、ちょっと今年度についてはなかなか難しいところがございます。市民ロビーにつきましては、土日が閉まってしまうというような制約もございますので、市内には、今ほど提案あったような、生涯学習センターや文化施設のほうもございますので、より多くの方から見ていただけるとということで、そちらのほうも活用いただければと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ぜひ検討してみてね、すぐ終わるもんじゃなくて、これからやっぱり相撲を活用して、糸魚川市を盛り上げていこうということなんで、いつか日のあるときに飾っていただければなと思いますし、やはりお願いする木浦保育園としてみれば、やっぱり市役所、本庁の1階で飾ることが、やっぱりね、うれしいんだと思いますよ。ぜひ、いい日があったら検討していただければなというふうに思っております。

先ほど教育長もちょっと話をされていましたが、子供たち、体同士をぶつけ合いましてね、負けた子はやっぱり泣くんですよ。それがまた心を強くしていくとか、身も心も強くなって、自分自身がたくましくなっていくというふうには私は思うんですけど、やっぱりそういった取組をほか

の園でやってくれということじゃなくてね、こういう取組もあるんだということをほかの園にもPRしながらやることによって、子供の教育にも生かしていけるんじゃないかなというふうに思いますが、その辺はいかがですか。ここを利用して、子供教育に生かしていく。その辺のお考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

お答えいたします。

小さな園児たちが、全身を使って、要するに五感をフルに活用しながら相手の力士と一緒に戦うというような場面については、非常に心身の健康づくりとか、意思の、何ていうかな、結局、相手を思いやるということも学ぶんだと思うんです。だから、体と心と、そして自分自身の志みたいなものも含めて、やっぱり人間形成には大事な場面なのかなというようにことを思ってます。だからこそ、木浦保育園は、みんなで力を合わせて、それを大事に大事に取り組んできたんじゃないかなというふうに思ってます。その取組について、やっぱり多くの方々に知ってもらおうということも大変大事なことになるかなと思います。取り入れる、取り入れないは、別にしましても、子供たちを育てる大事な場面として、そんなふうな活動も大切なんだよという部分については、尊重して、広めていきたいというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ぜひ相撲のまち糸魚川、活性化につながるとしますので、ぜひ活用していただければなというふうに思います。

高野能生事務所にちょっとお伺いしたんですが、相撲、化粧まわしがあそこに展示してあったわけですね。私も見に行ってきたんですけど、隣にテーブル、机を置いているわけですけど、あそこへ見に来た人たちが、結構、大の里の写真と一緒に化粧まわしがあるって喜んでる人たちもいたんですけど、特段、高野さんのほうには、そういう情報はないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

高野能生事務局長。〔能生事務局長 高野一夫君登壇〕

○能生事務局長（高野一夫君）

お答えいたします。

やはり今回の展示については、かなり多くの方が見に来ておられまして、しかも長い時間滞在される方が結構おられました。そういった方たちとも私、少しお話をしたんですが、やはりこの歴史ですとか、あまりにも立派な作品が多いもんですから、保護者の皆様のたたえる言葉ですとか、そういったものが多かったかというふうに思います。

また、他の保育園の園児たちも見に来ておられまして、そういったところも喜んでいる様子を確認しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ありがとうございました。ぜひこういう子供たちの、保育園児の相撲の取組、それから中学校、高校、それから大学というふうにつながって行って、角界へ入って横綱になるという、そういう流れが糸魚川市にできるとありがたいなというふうに思っています。

それに関連いたしまして、次に、能生中学校の相撲留学について伺います。

過去には、大の里のように家族がいなくても能生中学校へ入学することができました。それが、ある生徒の暴力により、親が一緒でないと入学ができなくなりました。それは、私もやむを得ないことだなというふうに理解をしておりますが、やはり他県の中学校を見ると、やはり中学校から認めているところもあるようなんですよね。やはり大の里がやっぱり強くなるというのは、中学校、高校、大学という流れがあったからかなという。中学校へ来たときは、海洋高校行って、高校生の胸を借りて相撲を覚え、海洋高校へ入学してからは、日体大の先輩の胸を借りて、相撲を覚えて。また、親方連中も年に何回か来ているようでありますので、そういう人たちからも教えを受けて、今の大の里、横綱があるのは、やっぱりそういった流れが大事ではなかったのかなというふうに思います。

今こういうふうに全国的にPRされると、もう今でもね、沖縄から来たり、いろんな出身の人がいますけど。強くなりたいということで、小学生が能生中学校を目指してくる人がいるのではないかなというふうに思いますが、私としては、そういう子供たちの夢をかなえさせてあげたいなというふうに思うわけですが、今こういう事件がありましたので、そういうこともできないときだなというふうに思っておりますが、当時のそういう本人も関係者も猛省してるということでありますので、もう一度、いつ時期が、そういう時期が来るのか分かりませんが、時期が来たら検討をしていただきたいというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

この問題につきましては、いろんな各方面からのしっかりした理解を得る必要があると、まず前段で思います。

もう一つは、今後、当然高校もそうですけども、中学、小学校の再編整備計画が出ていく中において、中学校の入学、転入学等に併せた仕組みづくりが、県教育委員会、市の教育委員会、また、全県的な流れの中で見ていかなきゃいけないと思っております。一部分だけの、何ていいますか、いわゆる相撲だけという部分じゃなくて、やっぱり特色ある学校づくりをすることによって、他県、また、市外からの受入れが可能になるような対応が、まず必要なんだと思います。

また、現在、多感な児童生徒につきましては、やっぱり親がそこにいるという状況も大切なものだと思いますので、それらの部分をきちっとトータルして考えて、この問題については当たっていかなければいけないんじゃないかなと思っておりますので、いましばらくお時間もかかると思いますけれども、対応については、また引き続き、またいろんなご意見を頂戴しながら進めていかなければいけないかなと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

大変これデリケートな問題なんでね、あまり質問はいたしません、ぜひそういう子供たちが多分増えてくると思いますので、そういう子供たちの夢がかなうような、そういう対策も考えていただければなというふうに思っております。

次に、相撲のまち糸魚川について質問を行います。

この相撲のまち糸魚川後援会は、糸魚川総合相撲クラブと商工会議所、市観光協会などが中心になり、発起人代表を米田市長が務めるというふうに聞いております。県の認証手続を経てから、7月上旬に発足予定と聞いていますが、現在どれぐらい進んでいるのか、内容が分かればお聞きします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

川合生涯学習課長。〔生涯学習課長 川合三喜八君登壇〕

○生涯学習課長（川合三喜八君）

お答えいたします。

NPO法人の糸魚川総合相撲クラブが母体となりまして、今回、相撲のまち糸魚川後援会を設立するものでございます。今月23日に、糸魚川総合相撲クラブの総会が開催されまして、その総会で後援会の設立が承認されれば、その後、NPO法人としての県の認証手続に入りまして、発足につきましては、来月7月の下旬頃になるというふうにお聞きをしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

7月下旬、じきですよ、頑張っていたきたいというふうに思いますが。会が発足した後に、力士や指導者の応援、相撲教室の開催などに力を入れていくというふうなことを言われていたんですが、現在、海洋高校の卒業生、相撲の力士ですよ、10人ぐらい角界に入ってると思うんですが、今後、一人でも多くそういうところに行けるような力をつけてもらえればありがたいなというふうに思いますけど、当然、会員を増やすためには、東京糸魚川会とか関西のほうとか、そういうところにも応援を、会員誘致というのは行うということによろしいですか、市民だけじゃなくて。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

川合生涯学習課長。〔生涯学習課長 川合三喜八君登壇〕

○生涯学習課長（川合三喜八君）

今回の相撲のまち糸魚川後援会は、糸魚川市民だけでなく、やはり糸魚川ゆかりの力士、海洋高校に集まってきていただく県外、市外の方を応援するという意味で、やはり東京糸魚川会、関西糸魚川会のほうにもお声がけをさせていただいて、市民とそれ以外の県外の方も一緒に糸魚川のこの相撲を盛り上げていただきたいということで、後援会のほうでは考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ぜひ多くの方に声がけし、糸魚川へ来た関係ない人たちにも見ていただいて、応援をしていただくということが大事だと思いますので、よろしく願いいたします。できれば一生懸命盛り上げて、小結ぐらいになってくれれば大変、私うれしいんですね。なぜかという、持ってきました。これですね、小結になると老眼鏡をかけなくても名前が読めるんですよ。横綱になればもっと大きいんですね。やはりここにバンと名前は大きくね、ぱっと見たら分かるような、こういうところに載るぐらいに、みんなを盛り上げていきたいと思いますので、一人でも多くの会員を募っていただければというふうに思っております。

また、後援会ができて、海洋高校の場合は県立ということで、金銭的な、市が直接金銭的な応援というのはできませんが、何か後援会とタイアップして、応援できることというのは、市独自ではあるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

川合生涯学習課長。〔生涯学習課長 川合三喜八君登壇〕

○生涯学習課長（川合三喜八君）

市のほうでは、例えば相撲の全国大会とかそういった場合に激励金を支給させていただいております。今回、後援会の中で、やはり各種そういう全国大会の遠征費等についても支援をしていきたいということをうたわれておりますので、市のほうも、後援会の動向を注視しながら連携を図ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

今、海洋高校もいろんなところへ遠征に行きますよね。それで、田海さんの寮の辺、朝出るときに見てると、ほとんど関係者の車に乗って、出かけてるというのが見えるんですね。だから、何らかの形でそういう関係者が少しでも、経費がかかっていますので足しになればというふうに思っていますが、そういうところも後援会として応援できる部分だということによろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

川合生涯学習課長。〔生涯学習課長 川合三喜八君登壇〕

○生涯学習課長（川合三喜八君）

今回の後援会の設立の一番のやはり大きな目的は、海洋高校相撲部、いろんなことで金銭的な支援が必要だということを、やはり後援会の有志の方が一番心配されておまして、そこをまず重点的にご支援させていただくというふうにお聞きをしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ぜひよろしくお願いいたします。

次に、海洋高校に土俵があるのは当然分かってるんですが、市内には、根小屋と高畑と横町、3か所に土俵があると思うんですね。これは、各地の相撲大会等あると思うんですが、これどのように、年1回とかそこらなんですか、どのように使われているのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

川合生涯学習課長。〔生涯学習課長 川合三喜八君登壇〕

○生涯学習課長（川合三喜八君）

横町と高畑地区につきましては、毎年8月に相撲大会を行っております。根小屋地区につきましては、コロナ禍で一時期、相撲大会が中止されておりましたが、今年は9月に再開されるということで、お聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

今聞くと、あまり使われていないということですよ。結局、聞くとところによると、あまり使われないと、どうしても整備が行き届いていない。土俵が傷んでくる。そういったことで、やはり関係者も大変だというような話をしてたんですよ。これを、例えば後援会のほうで、ボランティアでもいいんですよ。お金をということじゃなくて、ボランティアを募って整備をしていく。そういうことも考えていく必要があると思うんですが、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

川合生涯学習課長。〔生涯学習課長 川合三喜八君登壇〕

○生涯学習課長（川合三喜八君）

今現在は、土俵の管理につきましては、それぞれの地域、区で管理をされておりますが、後援会の事業の中に、相撲競技の環境整備等の支援というのもございます。そういったことで、後援会の中でまた今後、そういった部分のご支援もされるようにお聞きしておりますので、市といたしましても、その取組について情報共有を図ってまいりたいというふうと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

よろしくお願いいたします。

私、海洋高校の地元なものですから、朝、生徒が、普通の生徒よりは少し早く行っているようなんですね。自転車に乗っていくわけですが、自転車がかわいそうなぐらいひしめきながら走っています。ぜひそういう子供たちが、もう少し自転車をいじめるぐらい体が大きくなって、強くなっていたきたいなというふうに思っております。

今後、先ほど市長も申しましたが、相撲だけではなくて糸魚川市の豊かな食や文化、そして、これからインバウンドが大変増えてきております。そういう人たちにも、ぜひ日本の相撲というものも海洋高校へ行けば見られるわけですので、そういう人たちにもPRしながら、糸魚川市の活性化、人口減対策に努めていっていただきたいというふうに思っております。

以上で、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、中村議員の質問が終わりました。

関連質問なしと認めます。

暫時休憩いたします。

再開を11時10分といたします。

〈午前11時02分 休憩〉

〈午前11時10分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。〔17番 保坂 悟君登壇〕

○17番（保坂 悟君）

おはようございます。

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、市長公約である（仮称）駅北子育て支援複合施設の建設見直しについて。

（1）選挙公報の「本当に市民の声を聞いて進めたのか？」について。

① 駅北の復興計画、まちづくり戦略、（仮称）駅北子育て支援複合施設基本計画のどの部